

2024 年 5 月 29 日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

頸動脈狭窄症に対する当院での治療法の変化

2. 研究責任者

海南病院脳神経外科 和田 健太郎

3. 研究の概要

頸動脈狭窄症の進行により脳梗塞を来すことがあるため、その治療法は確立している。抗血小板薬を内服する内科的治療を行い狭窄の進行を遅らせ、病変のプラークを安定化させ予防治療を行うことが一般的となっており、まず内科治療を行うことが標準的である。しかし、病変の中には不安定プラークと診断されるものがあり、将来的に脳梗塞をきたすハイリスク因子となる。またそのような病変がある場合すでに脳梗塞を発症していることも多い。そのため脳梗塞の予防もしくは再発防止のための治療として外科的に頸動脈内膜剥離術：Carotid endarterectomy（CEA）もしくは頸動脈ステント留置術：Carotid artery stenting（CAS）を行うことが内科治療に続く標準治療となっている。

2023年4月以前ではJA愛知厚生連海南病院では脳血管内治療専門医常勤医不在のため、頸動脈狭窄症の治療でCEAを行うことが困難な病変の場合、名古屋大学脳血管内治療グループに連絡しCASを行ってきた。2023年4月より脳血管内治療専門医が常勤医として着任し治療体制が大きく変わり、また治療に関わるメンバーも変更があったために脳血管内治療専門医着任前後における治療結果が転帰にどのように影響を及ぼしたのか調査していく。なお脳血管内治療専門医はCEAとCASどちらの治療も行うことが可能で、患者さんごとにテーラーメイド医療を行うこと心がけている。

4. 研究方法

①対象となる患者さん

頸動脈病変がある患者さまで、2023年4月から2024年3月の間に当院でCEAもしくはCASを受けることになった患者さん

②使用する試料等

カルテ情報：各症例における頸動脈狭窄率、症候性かどうか、発症形式、神経所見、プラークの性状、画像所見（頸動脈エコー、CT、MRI など）Modified Rankin scale (mRS)、手術時間、治療効果などカルテ記載や記録から後方視的にデータを抽出する。

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 脳神経外科 和田健太郎
電話：0567-65-2511（代表）